

## ニーズ調査結果まとめ

### 1. ニーズ調査結果の傾向

#### (1) 保護者の就労状況について

- 保護者の就労状況については、就学前児童保護者及び小学生児童保護者の双方とも父親はフルタイム、母親はフルタイムやパート・アルバイトで就労している割合が、前回の調査時よりも多くなっています。就労に対する意欲が高く、育児をしながら就労を継続したという家庭が増えていることがうかがえます。
- 現在は就労していないものの、近い将来に就労したいと考えている母親も多くなっています。

#### (2) 保育園・幼稚園などの利用と利用意向について

- 就学前児童保護者については、両親ともに就労している家庭が多い状況を反映し、現在利用している保育所（園）や幼稚園等の施設サービスと今後定期的に利用したい施設・サービスはともに「保育所（園）」、「認定こども園」が多い状況にあります。現在の利用割合に比べて、今後利用したい施設としての回答が多いのは「認定こども園」となっています。
- 教育・保育サービス未利用者の子育てに関して知りたいこと、また気になることについては、「保育園について」、「幼稚園について」と回答する人も多くなっています。
- 子育て環境の満足度については、「④幼稚園の施設」、「⑤保育園の施設」「⑥就学前の教育」、「⑦就学前の保育」、「⑧特別保育」「⑨放課後児童対策」が前回調査に比べて「満足」と回答した人の割合が高くなっています。
- 幼児教育、保育の無償化が実施された場合の就学前児童保護者の家庭で起こりうることについては、教育・保育サービス未利用者、ひとり親世帯、専業主婦（夫）世帯で、「①子ども預けて働きに出る」、「②就労時間が延びる」に「あてはまる」と回答した割合が高くなっています。

### (3) 放課後の過ごし方について

- 放課後の過ごし方の現状や利用意向については、就学前児童保護者と小学生児童保護者ともに、「自宅」、「放課後児童クラブ(学童保育)」、「習い事・塾・スポーツクラブ」が多い状況です。特に「放課後児童クラブ(学童保育)」については、保護者の就労状況の変化もあり前回調査に比べて割合が多くなっています。
- 小学生児童保護者の放課後児童クラブの利用状況では、3割が利用していると回答しています。利用の満足度については、開所日数や開設時間については7割が「満足(満足+やや満足)」と回答している一方で、利用料については3割が「不満(不満+やや不満)」と回答しています。小学校別でみると、第二小学校で「③場所・施設・設備」、第十小学校で「⑤利用料」において「不満」と回答した人の割合が高くなっています。
- 通っている放課後児童クラブへの要望は、「利用料金の軽減」が最も多く、次いで「施設の増改築」、「指導員など職員体制の充実」となっています。小学校別でみると、第二小学校では「施設の増改築」、「設備機器の充実」、「安全対策」、「衛生対策の充実」などが多くなっています。また、第八小学校では「受け入れ児童数の拡大」が多くなっています。
- 放課後児童クラブを利用しない理由は、「保護者や祖父母等が昼間いるので必要ない」が最も多く、次いで「利用料がかかるから」、「放課後は習い事をしているから」となっています。学年が上がるごとに「放課後は習い事をしているから」、「放課後の短時間なら子どもだけで大丈夫だから」などの回答が高くなっています。
- 放課後子ども教室の利用希望は、「利用する」と7割が回答しています。また、放課後子ども教室に期待することは、「放課後の安全・安心な居場所」が最も多く、次いで「遊びや体験の場」、「子ども同士の交流」となっています。

### (4) 子どもをみてもらえる親族などの支援

- 子どもをみてもらえる親族・友人・知人の有無は、就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」、「いずれもない」となっています。前回調査と比べて「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が増加しており、一方で「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が減少しています。また、「いずれもない」と回答した人は1割います。

#### (5) 育児休業について

- 育児休業を取得した母親は3割となっています。希望する育児休業期間より早く復帰した人では、「希望する保育所に入るため」という回答が約5割を占めていました。
- 希望より遅く復帰した理由では、「希望する保育所に入れなかったから」という回答が6割となっており、保育所入所のタイミングと合わないために育児休業期間を変更した人が多くみられました。

#### (6) 子育てに関する悩み、気になることについて

- 子育てに関する悩み、気になることは、全体では「しつけ・成長等について」が最も多く、次いで「健康・発達について」、「食事や栄養について」となっています。
- 年齢別で見ると、0～2歳については「食事や栄養について」などの割合が高くなっています。

#### (7) 子育てや暮らしに関する情報の入手方法について

- 子育てや暮らしに関する情報の入手方法は、「身近の人（友人や同僚、地域の人）」が最も多く、次いで「保育園、幼稚園、認定こども園」、「自分の親」となっています。
- サービスの利用の有無別で見るとサービス利用者は「保育園、幼稚園、認定こども園」、未利用者は、「自分の親」などの回答が多くなっています。

#### (8) 地域で子育てを支えるために重要なことについて

- 地域で子育てを支えるために重要なことでは、「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りがある」が最も多く、次いで「情報を提供してもらえる」、「悩みについて気軽に相談できる」となっています。
- 年齢別で見ると、0～2歳については「情報を提供してもらえる」、「悩みについて気軽に相談できる」の割合が高くなっています。
- 小学生児童保護者を小学校別で見ると、第七小学校では「地域の伝統文化を子どもに伝えてもらえる」の回答が高くなっています。

#### (9) 子育て環境充実のために必要な支援策について

- 子育て環境充実のために必要な支援策は、就学生児童保護者、小学生児童保護者ともに「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」が最も多く、次いで「保育園や幼稚園、認定こども園、学校などにかかる出費負担を軽減してほしい」、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい」となっています。

## 2. 今後の方向性

### 【教育・保育の安定的な提供】

全国的な傾向と同じく当地域においても核家族化の進行や共働き世帯、ひとり親家庭の増加等により、今後も施設やサービスの利用状況は伸びていくことが考えられます。今後の子どもの増減や保育ニーズを踏まえた適正な定員の設定と利用調整が必要となります。

### 【放課後の子どもの居場所づくり】

放課後児童クラブ（学童保育）の利用ニーズは、今後も引き続き利用意向が高まることも想定されます。また、放課後児童クラブの利用者の要望として、施設の増改築や設備などの充実などの回答があがっています。

さらに、子どもの成長とともに放課後の過ごし方が変化し、また、多様化している中で、子どもが安心・安全に過ごせる場、異年齢の子どもや地域の大人たちと集団で遊ぶ機会等、児童の健全育成や総合的な放課後児童対策としての放課後子ども教室が果たす役割は大きくなりつつあり、子どもの居場所となる放課後子ども教室の提供などを検討する必要があります。

### 【働きながら子育てできる環境づくり】

女性の社会進出や働き方の変化による共働き家庭の増加や核家族世帯の増加などに伴い、保育園や認定こども園等の利用ニーズは高まっています。こうしたなかで働きながら子育てできる環境を整えていくには、長期的視野に立って、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に配慮した社会の実現を推進していくとともに、必要なときに必要な保育サービスを十分に利用できる体制を充実させることが必要となります。

### 【地域の子育て支援の充実】

核家族化の進展や地域社会の変化により妊娠中に不安や困りごとを抱え込んでしまう場合もあり、産前・産後うつ等の増加が社会問題となっています。

また、子どもの健やかな育ちのためには、子どもと母親の健康の確保・増進が不可欠です。妊娠・出産からの子育てに切れ目のない子育て支援体制として、各施策・事業の連携強化を図っていく必要があります。

今後も子育てに関する相談や情報提供体制を充実させるとともに、利用者支援事業や相談・紹介等の窓口環境の整備を図る必要があります。